

第12回 今年も「善福寺川 水鳥一斉調査」を行いました!!

【水鳥一斉調査の目的】

現在の善福寺川の自然を知ることと、区民の皆さんにもっと善福寺川に注目してもらうことを目的に、善福寺川でどんな水鳥が、どこで、どれくらい利用しているかを一斉に調べる、「善福寺川 水鳥一斉調査」を実施しました。水鳥以外の鳥もあわせて調べました。

＜実施日＞ 令和2年2月1日(土)10:00~12:00 晴れ

【調査の方法】

区民の皆さんと善福寺川の自然を再確認する＜区民参加による水鳥調査＞と、善福寺川全域の水鳥の利用状況を把握する＜専門の調査員による水鳥調査＞を行いました。

＜調査ルート＞



＜区民参加による水鳥調査＞

今年も善福寺公園（Aルート）、西田橋～尾崎橋（Dルートの一部）、尾崎橋～和田堀池（Eルートの一部）において、善福寺川流域の小学校の児童とともに、鳥に詳しい先生の解説を受けながら、善福寺川を利用する鳥について観察し、種類や個体数を記録しました。



参加した小学生の皆さんとの調査風景

＜専門の調査員による水鳥調査＞

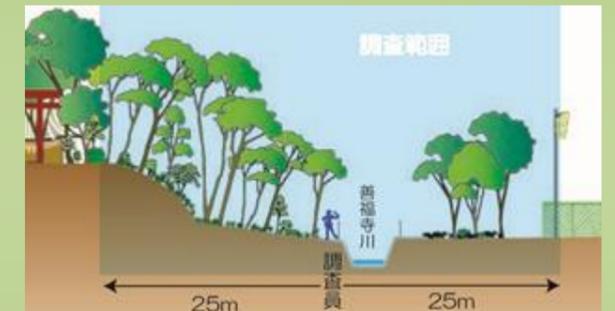
善福寺川を6区分し、それぞれの区間に約2kmの調査ルート（A～F）を設定、各ルートに出現する鳥類の確認を同時間一斉に実施しました。

調査は、一定の速度で2時間歩き、ルート上の幅50m（片側25m）の範囲に出現する鳥類の種類、個体数、諸行動について記録しました。

各ルートについて、Aルートは池の周辺に樹林や植栽帯、池内にヨシや低木が点在しています。B・Cルートは住宅地内、D・Eルートは緑地内をそれぞれ川が流れて、Fルートは住宅地からビル街にかけて川が流れています。



池があるAルート



緑地が広がるD・E・Fルート

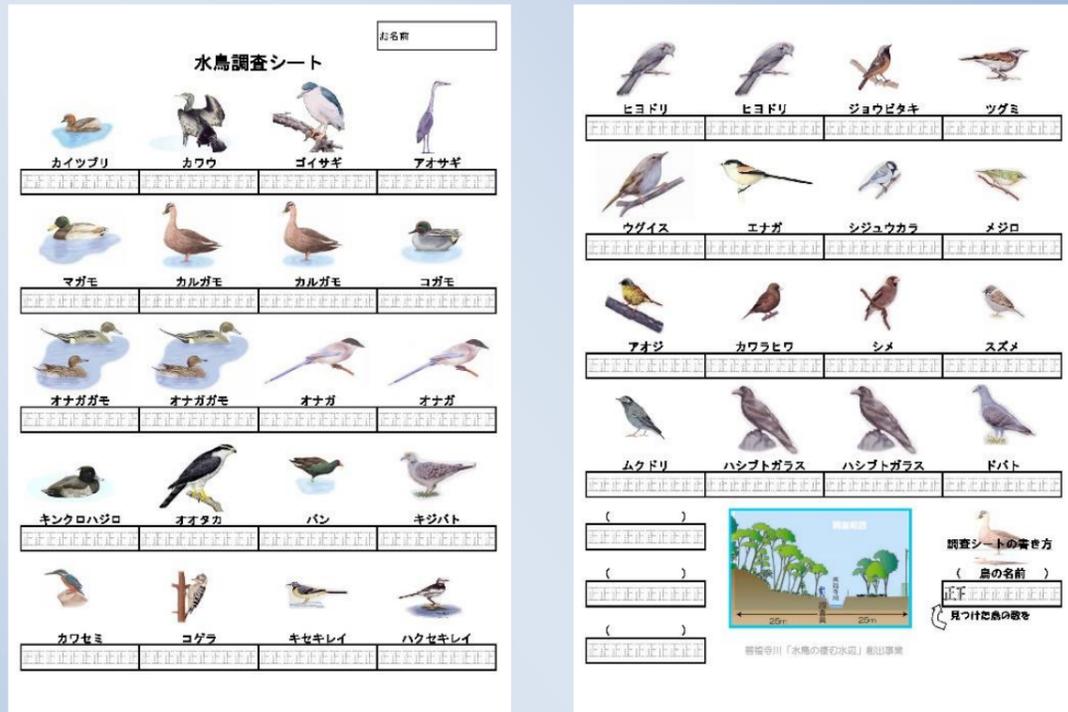


専門の調査員による調査風景

今年の水鳥調査参加小学校

◇参加小学生による調査記入シート

小学生による調査記入シートにはどんな鳥を見たのかがすぐわかるように鳥の絵が描かれています。そこに見られた鳥の数を「正」の字を使って記入し、最後に集計をします。鳥の絵は、解説員で野鳥図鑑画家でもある谷口高司さんに描いていただいたものです。



◇今年の参加小学校

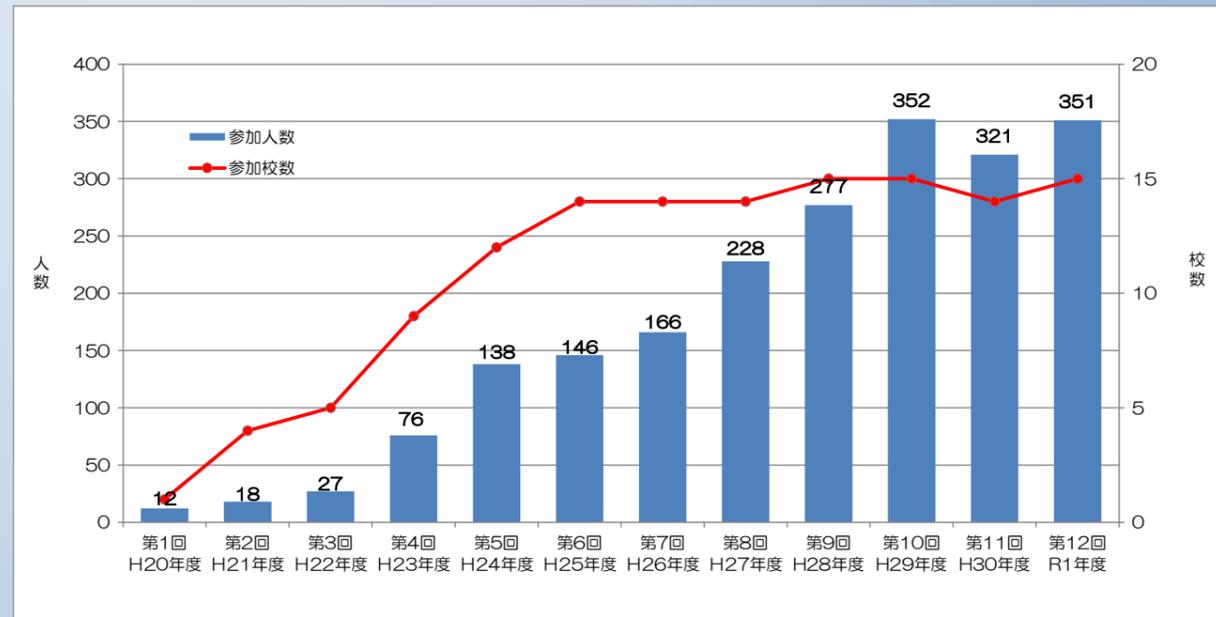
第12回を迎える今年も、小学校15校163名の生徒さんと、その保護者の方々188名の合計351名が参加しました。また、13名の解説員の先生に協力いただきました。

調査コース	参加小学校(15校)	参加人数	解説員
善福寺公園	井荻 桃井第一 桃井第二 桃井第三 桃井第四	小学生：58名 保護者(未就学児含む)：70名	西村 真一 先生 谷口 高司 先生 谷口 律子 先生 石原 武 先生 本多 直子 先生
西田橋～尾崎橋	杉並第一 杉並第二 杉並第七 西田 東田	小学生：60名 保護者(未就学児含む)：66名	伊藤 晴康 先生 石原 美鈴 先生 谷島 みどり 先生 赤見 広之 先生 西谷 淳 先生
尾崎橋～和田堀池	済美 松ノ木 堀之内 浜田山 大宮	小学生：45名 保護者(未就学児含む)：52名	佐々木 幹夫 先生 渡辺 博重 先生 中里 昌樹 先生
計		小学生：163名 保護者(未就学児含む)：188名	

◇水鳥調査参加状況の推移

第1回は小学校1校、12名の少人数で始まった調査ですが、回を重ねるごとに参加者、参加校が増え、近年は300名を超える方々に参加いただいております。

今年も最も多かった第10回(H29年度)とほぼ同じ参加状況でした。



◇今年の参加小学校の位置図

今年も善福寺川流域の小学校に参加いただきました。



区民参加による水鳥調査の結果

◇最近3年間の調査結果(確認した鳥と数)

今年の調査では、「水鳥」は、カルガモ、オナガガモ、ハクセキレイ、カイツブリ、アオサギ、キセキレイが多くみられ、「水鳥以外」では、オナガ、ドバト、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジバトが多くみられました。また、今年は新たにオカヨシガモが観察されました。

確認した種	今年の結果(2020年2月)			昨年の結果(2019年1月)			一昨年の結果(2018年1月)		
	Aルート (善福寺公園)	Dルート (西田橋~船橋橋)	Eルート (船橋橋~初田橋)	Aルート (善福寺公園)	Dルート (西田橋~船橋橋)	Eルート (船橋橋~初田橋)	Aルート (善福寺公園)	Dルート (西田橋~船橋橋)	Eルート (船橋橋~初田橋)
1 アオサギ	1~11	1	1~11	4~20		1~9	1~6		
2 オオバン	1~5			1			1~10		
3 オカヨシガモ	1~4								
4 オナガガモ	1~7	1~11	1~16	1~79	2~14	2~30	2~55	1~5	1~11
5 カイツブリ	1~16	6	1~6	1~23		2	1~20	1~2	2
6 カルガモ	7~88	2~18	4~48	4~80	5~30	3~64	3~65	2~15	5~35
7 カルガモ×マガモ									1~8
8 カワウ	1~6	1		1		1	1~5	4	1~2
9 カワセミ	2~9	1~2	1	1~21	1	1~4	1~6	2~6	1~7
10 キセキレイ	1~5	1~10	1~6	1~7	1	1~4	3	1~4	1~5
11 キンクロハジロ	5~11		1~5	1~28		1~14	5~40		
12 ゴイサギ	1~7	1	1~3	1~11	1		1~5		
13 コガモ	1~5	1~3	1~3	1~15	1~4	1~6	1~2	1~2	1~6
14 コサギ	1~2			1~7			2		
15 スズガモ									
16 セグロセキレイ									
17 ダイサギ	1						1~2		
18 ハクセキレイ	1~3	1~16	1~10	1~10	3~14	1~15		1~10	1~7
19 ハシビロガモ	1~3			1			1		
20 バン	1~9		10	6			1~4		
21 ホシハジロ							1~4		
22 マガモ	1~2	1~5	1~9	1~17	1~5	1~9	1~30	1~5	1~14
23 コリカモメ									
24 アイガモ(アヒル含む)									
25 バリケン									
小計	18種類	11種類	12種類	16種類	8種類	11種類	17種類	9種類	10種類
1 アオガラス							1~4		
2 アオジ	1	1~6		1~3			1~1	1~5	
3 アカハラ							1		
4 アトリ				1	1~6	1~13			
5 ウグイス	1~3		1	1~2		1	1~2	1~4	
6 エナガ	1	1~8	1~15	1~4	1~23	1~3	7~15	10	2
7 オオタカ	1~2		1~2	1~11		1~3			
8 オナガ	1~45	1~3	4~83	1~10	5~10	1~12	1~10	1~17	1~5
9 カワラヒワ	1	1~3	1~22	1~5	1~9	3~10	2	1~5	1~30
10 キジバト	1~40	1~9	1~15	1~25	1~31	1~12	1~12	1~9	2~17
11 コガラ	1~5	1~11	1~5	1~4	1~5	1~3	1~5	1~5	1~2
12 シジュウカラ	1~11	2~30	1~10	1~45	1~13	1~14	1~30	1~17	1~10
13 シメ	1	1	2	1	1~2	1~15			
14 ショウビタキ	1~2	1~13		1~10			1	1	
15 シロハラ				2		1~2			
16 スズメ	1~3	1~10	1~17	1~7	1~5	1~12	1~30	1~3	2~15
17 ツグミ	1~3	1~10	1~6	1	1~5	1~4	1~8	1~12	1~5
18 ツミ						1			
19 トビ									1~7
20 ハシブトガラス	1~18	2~19	3~48	1~47	1~10	1~73	1~12	1~27	1~30
21 ハシボソガラス	1~9	1~3	2~55	1~4	1~5	1~6	1~2	1~3	2~12
22 ヒガラ		3	5		10				
23 ヒヨドリ	1~7	3~20	1~20	2~53	2~46	3~27	5~61	2~74	2~41
24 ムクドリ	1~12	1~60	1~30	1~6	1~30	2~4	1~8	1~42	1~50
25 メジロ	1~5	1~14	1~7	1~3	1~10	1~5	1~5	1~5	1~4
26 モズ	1	1~3	1~5						1
27 ヤマガラ					1~6				
28 ルリビタキ									
29 ドバト	11~66	1~37	1~11	1~41	6~128	1~29	1~31	1~10	1~6
30 ホンセイインコ		1~2							
31 ニワトリ									1
小計	20種類	20種類	19種類	21種類	18種類	20種類	19種類	17種類	17種類
確認した鳥の種類数	38種類	31種類	31種類	37種類	26種類	31種類	36種類	26種類	27種類
		40種類			40種類			41種類	

注意1: 調査用紙に記入された観察数のうち、最少数~最多数を示している。ただし、極端に数が多かったり、不自然な種類の記載があった場合は修正を行った。

注意2: 赤字はそれぞれのコースで確認個体数が多い上位3種。

◇今年確認された主な水鳥たち



オナガガモ



ハクセキレイ



カイツブリ



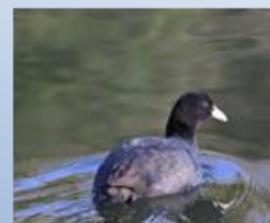
アオサギ



カワセミ



ゴイサギ



オオバン



ハシビロガモ



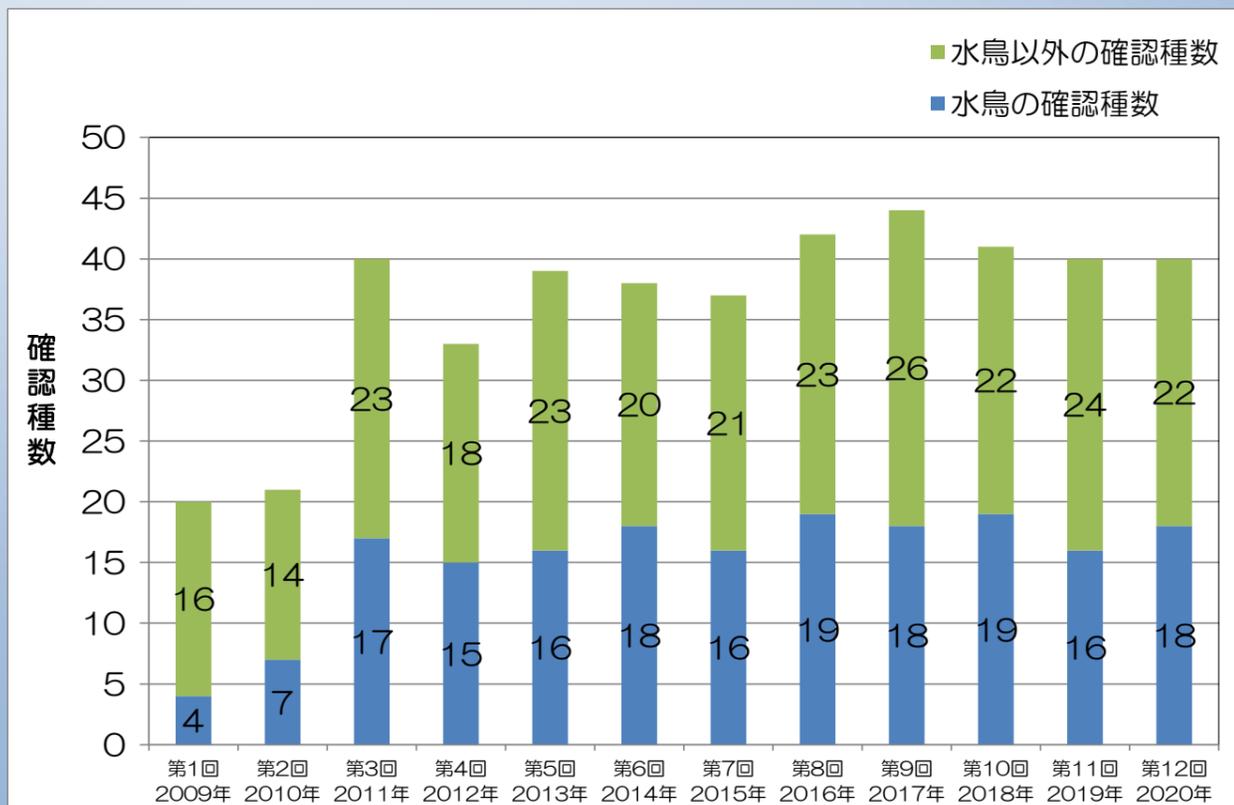
ダイサギ



オカヨシガモ

◇確認された鳥の種数の推移

第1回、第2回の調査では、確認された種数は少なく、20種類程度でしたが、参加者や調査範囲が増えることにより、種類も増え、近年は、水鳥、水鳥以外の種類がそれぞれ20種近くを観察できるようになりました。その中で今年は、合計40種類を確認しています。



専門の調査員による水鳥調査の結果 1

今回の専門調査員による調査では、善福寺川全体で39種類の鳥類（水鳥以外の鳥も含め）が確認され、このうち「水鳥」は、19種類でした。

全体を通して最も多く見られた鳥は、「1位 カルガモ」「2位 オナガガモ」「3位 ドバト」でした。

また、最も多くの種類が確認されたルートは、Aルート（善福寺公園）で、善福寺池を中心に多くの水鳥が確認されました。

Aルートでオカヨシガモとツミ、Cルートでホシハジロ、Eルートでアオサギ、Fルートでダイサギが、はじめて確認されました。

注1) 青字は、水鳥（外来種は含まず）

注2) 紫字は、外来種

注3) ピンクの網かけは、各ルートで確認数の多い値(上位3種)

注3) 黄色の網かけは、各ルートにおいて12年間の調査の中で今年新たに確認された種

注4) 灰色の網かけは、交雑個体であるため種数の合計には含まない

注5) ※は調査時間外の確認種

区分	目名	科名	種名	全体			Aルート			Bルート			Cルート			Dルート			Eルート			Fルート			
				2020年	2019年	2018年																			
在来種	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	8	3	3	8	3	3																
	ハリハコ	ウ	カワウ	9		6	2		2	4			1		2		1	1			1		1		
	コウノトリ	サギ	ゴイサギ	10	4	1	10	4							1										
			ダイサギ	2		1	1									1							1		
			チュウサギ		1										1										
			コサギ	6	8	6			2		3	3	2	3	1	3			1				2		
			アオサギ	7	8	2	6	8	2										1						
			オカヨシガモ	1			1																		
	カモ	カモ	ヒドリガモ	21	6	10				3	2	3	18	4	7										
			マガモ	3	5	2			2		2	2	2								1				
			カルガモ	212	151	133	45	44	21	24	4	13	52	19	31	13	22	12	54	47	30	24	15	26	
			コガモ	92	75	82	3	3		30	28	34	40	28	32		1	1			2		19	13	15
			オナガガモ	159	194	229	2	19	11	31	35	31	85	89	125			9	1	7	5	40	44	48	
			ハシビロガモ	5	7	7	3			2	7				7										
			ホシハジロ	6		3	1		3	2			3												
			キンクロハジロ	14	8	34	5	3	24	5	5	1	3					8	1						
			スズガモ																						
			カルガモ×マガモ		3	4						2			1	2					1				
	タカ	タカ	トビ			1			1																
			オオタカ		2				2												*				
ツミ			1			1																			
ノスリ																									
ツル	クイナ	バン			1			1																	
		オオバン	3			2						1													
ハト	ハト	キジバト	14	18	25	4	8	4		3		1		1	2	5	8	6	2	11	1		1		
		フホウソウ	7	4	6	4	2		1	1		1			4	1		1		1	1				
キツツキ	キツツキ	アオゲラ			1			1																	
		コゲラ	7	6	9			3	2							2	2	2	5	1	5				
スズメ	セキレイ	キセキレイ	13	6	11			1		3		8	4		1	1	2	1	2	2	3	1	1		
		ハクセキレイ	57	58	56	2	3		13	11	23	19	10	6	5	17	10	10	9	7	8	8	10		
		セグロセキレイ																							
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	ヒヨドリ	57	126	95	19	59	31	6	3	8	4	10	6	6	25	13	16	22	28	6	7	9	
			モズ	1	2				2							1									
	ツグミ	ツグミ	ルリビタキ	1		2	1																	2	
			ジョウビタキ	1	3		1	2													1				
			シロハラ	9	2	10	2		1	1		3			1	1	4	2	1	3					2
			ツグミ	3	17	2	2	16	1			1							1	1					
	エナガ	エナガ	エナガ	13	13	19	4		5						2	13		7			14				
			シジュウカラ	40	46	42	15	29	24	3	1				7	12	5	14	3	13	1	1			
	メシロ	メシロ	メシロ	20	27	39	5	8	19		2	7	4	2	2	5	4	2	6	7	6		4	3	
			ホオシロ	1	4	3			3	1		2	1							1					
	アトリ	アトリ	カワラヒワ			37			*								*				34			3	
クノ																									
シメ				4				4																	
アトリ				9												1				8					
ハタオリ	スズメ	スズメ	23	61	44			2	11	9	2	2	20	9		13	8	8	5	4	2	14	19		
		ムクドリ	68	28	62	10	7	4	11	3	9	6	3	5	10	15	20	21		10	10			14	
カラス	カラス	オナガ	10	3		5	3											1				4			
		ハシボソガラス	19	7	7	4			1	2		7			3		4	1	7		1		1	2	
外來種	ハト	ドバト	154	121	99	77	16	7	13	7	46	38	2	9		42	16	3	43	1	23	11	20		
		ホンセイインコ	11	4	1	5	2						1		2	2	1	3							
計				確認個体数	1122	1076	1146	265	266	173	170	129	195	297	194	259	61	185	126	186	178	216	143	123	177
				確認種数	39種	36種	37種	31種	29種	23種	20種	19種	17種	22種	13種	21種	15種	19種	21種	22種	20種	18種	14種	13種	17種

専門の調査員による水鳥調査の結果 2

◇善福寺川における12年間(12回調査)の「水鳥」の確認状況



12回の調査で
確認された回数

	Aルート	Bルート	Cルート	Dルート	Eルート	Fルート
10～12回 ほぼ毎回観察 される水鳥	 	 	 	 	 	
7～9回						
5～6回						
3～4回	 	 				
1～2回 観察は 稀な水鳥			 		 	

確認された種類数

20種類

16種類

20種類

10種類

14種類

10種類

専門の調査員による調査結果 3 (12年間の調査のまとめ)

◇主な生育環境による区分別の確認種数(12年間)

12年間の一斉調査の結果から、確認された鳥を主な生育環境により区分し、種類や確認個体数をルート別に平均して比較しました。

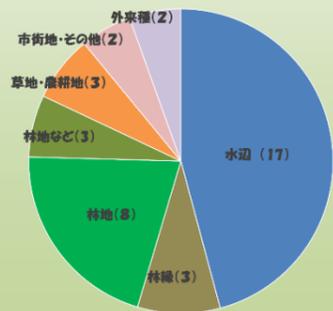
全体

- 善福寺川全域には冬の時期に約38種、1100羽ほどの鳥が利用していることが分かりました
- そのうち善福寺川にいる「水鳥」は、約17種、720羽でした。

ルート別

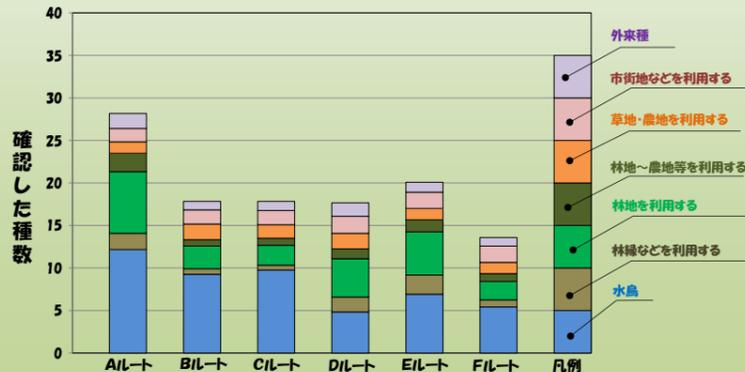
- Aルート(善福寺池)では、約28種類、390羽で最も多くの鳥がみられました。
- 対照的に、種類が最も少ないのは最下流部のFルートで約14種類、約190羽でした。
- Aルートは、約12種類の「水鳥」がみられ、その数は約220羽となります。
- 対照的に、「水鳥」の種類が最も少ないのは善福寺川緑地の中を通るDルートでした。
- 「林縁」「林地」「林地～農地」を利用する鳥は、A、D、Eルートで多く、その種類は、10種類程度でした。

全体



()内の数字は種類数を示す

ルート別



<外来の鳥>

ガチョウ、バリケン、ドバト、ホンセイインコ

<市街地などを利用する鳥>

スズメ、ハシフトガラス

<草地・農地を利用する鳥>

ジョウビタキ、ムクドリ、ハシボソガラス

<林地などを利用する鳥>

トビ、オオタカ、ツミ、キジバト、オナガ

<林地を利用する鳥>

アオゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ルリビタキ、アカハラ、シロハラ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、シメ、アトリ

<林縁などを利用する鳥>

モス、ツグミ、アオジ、カワラヒワ

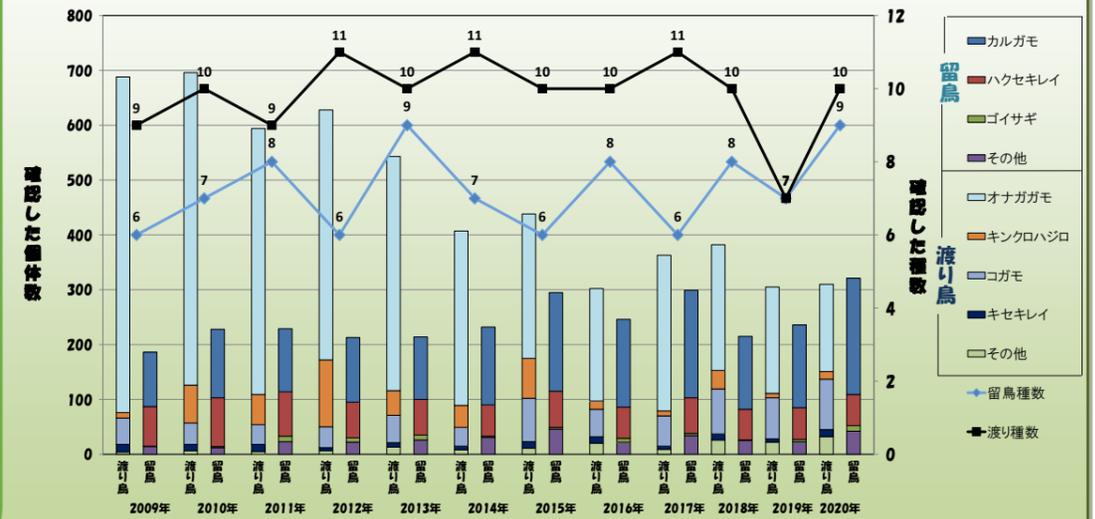
<水鳥(水辺を利用する鳥)>

カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オシドリ、オカヨシガモ、マガモ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、バン、オオバン、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ユリカモメ

※調査時間外のみ確認種は除く

◇水鳥における渡り鳥と留鳥の確認状況の変化

- 渡り鳥の個体数は2009～2010年に700羽近く確認されましたが、近年は300羽程度で、年々減少している傾向がみられます。
- 対照的に留鳥のカルガモの個体数は2009年には100羽前後でしたが、最近では、やや増え150羽を超える年が増えており、今年度は最も多い200羽以上が確認されています。
- 種類数は、渡り鳥・留鳥ともに年による大きな増減はありませんでした。



注)今年度は渡り鳥の区分の見直しをしたため、過年度の報告とは結果が異なります。

◇杉並区全域(※1)と善福寺川での確認された鳥類の違い

- 善福寺川では杉並区で確認されている冬鳥および留鳥をほとんど(約9割)を見ることができます。特に水鳥はイソシギを除くすべての種類が確認されました。
- これまでの調査によって、「水鳥」ではオカヨシガモ・ヒドリガモ・ホシハジロ・ユリカモメ、「陸鳥」ではアトリ・ウソ・猛禽類のノスリが新たに確認されたことがわかりました。

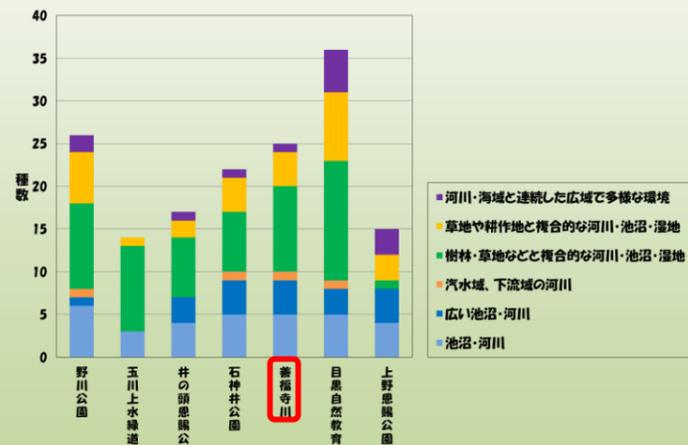
種名	区分	善福寺川	杉並区全域
アオサギ	留鳥	●	●
イソシギ	留鳥	●	●
カイツブリ	留鳥	●	●
カルガモ	留鳥	●	●
カワウ	留鳥	●	●
カワセミ	留鳥	●	●
ゴイサギ	留鳥	●	●
ダイサギ	留鳥	●	●
ハクセキレイ	留鳥	●	●
バン	留鳥	●	●
オオバン	冬鳥	●	●
オシドリ	冬鳥	●	●
オカヨシガモ	冬鳥	●	●
オナガガモ	冬鳥	●	●
キセキレイ	冬鳥	●	●
キンクロハジロ	冬鳥	●	●
コガモ	冬鳥	●	●
コサギ	冬鳥	●	●
スズガモ	冬鳥	●	●
ハシビロガモ	冬鳥	●	●
ヒドリガモ	冬鳥	●	●
ホシハジロ	冬鳥	●	●
マガモ	冬鳥	●	●
ユリカモメ	冬鳥	●	●
チョウサギ	旅鳥	●	●
セグロセキレイ	不明	●	●

種名	区分	善福寺川	杉並区全域
アオゲラ	留鳥	●	●
ウソ	留鳥	●	●
エナガ	留鳥	●	●
オオタカ	留鳥	●	●
オナガ	留鳥	●	●
カケス	留鳥	●	●
カワラヒワ	留鳥	●	●
キジバト	留鳥	●	●
コゲラ	留鳥	●	●
コジュケイ	留鳥	●	●
シジュウカラ	留鳥	●	●
スズメ	留鳥	●	●
チョウゲンボウ	留鳥	●	●
ツミ	留鳥	●	●
トビ	留鳥	●	●
ハシフトガラス	留鳥	●	●
ハシボソガラス	留鳥	●	●
ヒガラ	留鳥	●	●
ヒヨドリ	留鳥	●	●
ホオジロ	留鳥	●	●
ムクドリ	留鳥	●	●
メジロ	留鳥	●	●
ヤマガラ	留鳥	●	●
アオジ	冬鳥	●	●
アカハラ	冬鳥	●	●
アトリ	冬鳥	●	●
ウグイス	冬鳥	●	●
カシラダカ	冬鳥	●	●
シメ	冬鳥	●	●
ジョウビタキ	冬鳥	●	●
シロハラ	冬鳥	●	●
ツグミ	冬鳥	●	●
ノスリ	冬鳥	●	●
モス	冬鳥	●	●
ルリビタキ	冬鳥	●	●

◇善福寺川と周辺緑地でみられる鳥の比較(※2)

水鳥の生息環境をさらに細区分し、都内で善福寺川と同じ台地に位置している、水辺環境を有する主要な公園・緑地・庭園で確認された水鳥の種類と比較しました。

- 種類数は目黒自然教育園、野川公園に次ぐ3番目の種類数でした。
- 都内の公園等の水鳥と比較すると、台地部の大きな水面を有する公園(井の頭、石神井)と、多様な環境と接する水路や河川の緑地の性質(野川、玉川上水)を併せもつ種構成であることがわかります。



※2「多様な生物が生息する都立公園づくり事業 東京都建設局 平成25～27年度」における生物データを活用。

◇これまでの調査で確認された注目すべき種類

- 国や都のレッドデータブックに掲載されている種類をみると、19種類が該当しました。これらは、善福寺公園のあるAルートで最も多く、次いでEルートとCルートで多く確認しています。

種名	国RD ※1	東京都 RD ※2	これまでの調査で確認された場所					
			Aルート	Bルート	Cルート	Dルート	Eルート	Fルート
カイツブリ		NT	●				●	
ダイサギ		VU	●	●	●		●	
チョウサギ	NT	VU	●		●	▲		
コサギ		VU	●	●	●		●	●
オシドリ	DD	EN			●			
スズガモ		*		●				
トビ		NT			●			
オオタカ	NT	CR	●				●	●
ツミ		CR	●					
ノスリ		EN	▲					
バン		VU	●				●	
オオバン		VU	●		▲			
カワセミ		VU	●	●	●	▲	●	
アオゲラ		EN	●					
セグロセキレイ		VU	●	●	●	●	●	
モス		VU	▲			▲	●	
エナガ		*						
ヤマガラ		VU					▲	
ウソ		NT	▲					
種数の合計			12	5	8	5	9	2

※1 レッドデータブック(環境省.2013)

NT: 準絶滅危惧
DD: 情報不足

※2 東京都レッドデータ(東京都.2013)

CR: 絶滅危惧 I A 類
EN: 絶滅危惧 I B 類

VU: 絶滅危惧 II 類
NT: 準絶滅危惧

*: 留鳥種
*: 非分布種

▲ 調査時間外のみ確認種



※1「杉並区自然環境調査報告書(第6次)」調査は1985～2013年の間に10回実施。旅鳥は除く。